

「さわやか西中 あこがれの自分を求めて」

平成28年度 柳津町立西山中学校

学校だより

平成28年12月9日(金)発行 第 34 号 発行責任者:高橋 弘悦

バカヤンキーでも世界の名門大学で戦える 柳津町教育を語る会

3日土曜日、町PTA連絡協議会主催の「教育を語る会」講演会が開催されました。講師は「バカヤンキーでも世界の名門大学で戦える」の著者 鈴木琢也さんです。

本来、講師の鈴木先生にはこうしたPTA主催の講演会ではなく、西山中学校独自の講演会の講師として呼び出す予定でした。でも、本も出版されていて、全国的に有名な人でもあったので、「西山中学校だけで拝聴するにはもったいない…」との考えから、町のPTA連絡協議会の行事として実施していただいたものでした。



本校には、鈴木先生のお書きになった本があります。よく読まれているようですが、著者から直接お話が伺える講演会は、内容の濃さが全然違う。それに生の声を聞けるというのはそう滅多にある機会ではありません。

講演会には、西山・柳津両中学校の全校生が参加したということもあり、例年の約3倍、町の内外から約180名もの参加者がありました。講演内容も、生徒にとっても、保護者の方にも、そして我々教職員にとってもとても考えさせられる内容で、大変充実した時間を過ごすことができました。

講演内容要旨 不良から世界のバークレーを目指すまで

鈴木さんは、中学高校と、周りの人が眉をひそめるようないわゆる「不良」でした。学校にもまともに行かない、行ってもほとんど勉強しないという生徒です。「家庭内がばらばらで居場所がなかった。唯一の居場所が不良仲間だった」それがぐれた原因でした。鈴木先生がいう家庭内の問題は、それはそれで理由があるものですが、幼い鈴木先生にはそれを理解する余裕も精神の成長もない。「中学、高校の6年間は親とまともに会話をした記憶がない」といいます。

「仲間とはたはける」という理由から、先輩のつてをたどってとび職、そして「学ぶ力」の必要性を感じて専門学校、IT企業へ就職。

その後、それまであえて背を向けていた父のすごさに気づいて大学進学を決意。家の援助を受けて大学に行く以上、それに応える必要がある。そのために国内最高と思われる東京大学をめざそうとするが、

合格までかなりの年数が予想される。それなら海外の大学も選択肢の一つになるのではないかと、世界の超一流大学、カリフォルニア大学バークレー校をめざします。「東大にせよバークレーにせよ、その世界を知らなかったから目指せたんですよね。怖いもの知らずでした」とは本人の談です。

バークレー校入学までには、語学学校、短期大学を経ることになりますが、渡米してからバークレー校卒業までに、1日14時間の勉強をされたといいます。しかも「漢字が読めない」レベルからのスタートです。

勉強をはじめ、いわゆる既製の価値観から全く背を向けた状況からこのような過酷な世界に身を置くことができたのはなぜか。鈴木先生は、それを「家族愛」の支えのもと、「目標を明確に定めたから」といいます。このあたりの機微は、ぜひ著書をご覧くださいと思います。



この中にあのトップアーティストが…

学歴はいらないが勉強は必要

全てを記録にとっておきたいほどの内容だったのですが、生徒はもとより、私たち大人もしっかり受け止めるべき、と感じる内容がありました。

一つ目は、「学歴はいらないが勉強は必要だよ」ということば。これは、これからの時代を生きる特に生徒の皆さんにはぜひ肝に銘じて欲しい。知識だけなら、今の世の中どこでも手に入れることができますが、その方法と知ろうとする意欲は必ず必要になります。

二つ目は、これが日本と世界の「学力」のとらえ方の違いでもあります。得られた知識をどのように生かすか、という考え方です。鈴木さんは「知力+人間力」とおっしゃっておられました。これまでの日本は知識量が問われていましたが、これからの世の中は得た知識をどう生かしていくかが問われる時代です。

三つ目は、「私は頭が悪い」から「やってもしょうがない」と考えるのではなく、「私は頭が悪いから人一倍やらないといけない」と考えるようにすること。世界の頭脳が集まるカリフォルニア大学バークレー校の在籍生でも、ほとんどが「私は頭が悪い」から「勉強する」日々努力を怠らない集団だそうです。

四つ目は、未来は予想できないけれど、未来は自分でつくるものだということです。予想はできないけど、そうなるように努力すれば未来は思い通りになる。どうなりたいのか、という考えをしっかりと持って目標に向かってがんばること。

鈴木さんの不良時代の仲間は…

鈴木さんと不良時代に一緒につるんでいた友人たちは、鈴木さんの渡米後「オレもこのままではいけない。琢也が帰ってきたとき、恥ずかしくないことをしたい」とそれぞれに目標に向かって歩み始めたそうです。そのうちの一人は、今や名前をいえば誰でも知っているようなトップアーティスト。

(写真の中にいます。送迎の車の中で教えていただいて驚きましたが、ネットでも経歴は伏せられています。差し障りがあるかもしれませんが名前を控えます。)

彼は、鈴木さんの渡米後、何度もオーディションを受け、努力を重ねて今の地位を築きました。

いずれにしても、私は鈴木さんはある意味で幸せだなと思いました。それは、自分でも気持ちよくなるぐらい「がんばった」という期間を持つことができた人だからです。

何かをきっかけとして本校の生徒にもスイッチが入り、すごい努力をする期間が訪れることを期待したいと思います。

講演会実施にあたり、保護者の皆様には送迎等大変お世話になりました。子どもたちに聞かせたい話を聞かせることができました。ありがとうございました。

